



青少年育成だより

令和6年
3月発行

発行：鹿児島地域青少年育成推進協議会（鹿児島地域振興局総務企画課内）
〒892-8520 鹿児島市小川町3番56号
TEL：099-805-7206 FAX：099-805-7400

令和6年 春の『郷土に学び・育む青少年運動』

令和6年3月11日(月)～4月10日(水)

《趣 旨》

春は、卒業・進学・就職など、青少年にとって人生の節目となる貴重な経験をする大切な時期である。青少年の生活環境が変わるこの時期に、家庭、学校、職場、地域及び関係機関・団体等が緊密な連携を図りながら、「郷土（ふるさと）に学び・育む青少年運動」を積極的に展開し浸透させることにより、鹿児島の古くからの伝統である地域で青少年を育てる気風を盛り上げ、郷土に根ざしたグローバルな人材を育成する。

《実施事項》

- (1) 推進体制の充実・強化
- (2) 青少年の育成
- (3) 青少年を育てる環境づくりの推進
- (4) 関係機関・団体が相互に連携した運動の推進



《運動の進め方》

学校、職場、地域、関係機関・団体等は、青少年育成は家庭が基本であるという認識のもとに、鹿児島の教育的伝統と風土を生かしながら、それぞれの実情に応じた取組を、独自に、又は相互に連携して実施する。

また、同期間中に実施される他機関の関連運動とも連携を図りながら、効果的に推進するとともに、児童・生徒の春休み期間を含むことから、非行防止や各種事故防止及び令和6年「春のあんしんネット・新学期一斉運動」に関する取組についても重点的に推進する。

令和5年度『郷土に学び・育む青少年運動』強調月間の取組より

鹿児島市 鹿児島市秋の心豊かで元気あふれる『さつまっ子』を育てる運動

令和5年10月15日(日)～11月30日(木)

本市では、当運動と連動して、「秋の心豊かで元気あふれる『さつまっ子』を育てる運動強調期間」を定め、青少年健全育成の諸事業を意図的に実施し、市民一人一人が、青少年の健全育成について理解を深め、心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成している。

学校や家庭、地域で青少年健全育成の取組を推進する。

- (1) 実施機関・団体では、運動の趣旨や実践活動の方法等について、関係者への周知・徹底を図る。
- (2) 地域では、青少年健全育成指導者等が中心となり実態を把握し、「あいさつ運動」を中心とした地域活動の推進を図る。また、「青少年育成の日」には、地域の特色を生かした活動が一層盛り上がるように工夫する。
- (3) 家庭では、「あいさつ運動」に積極的に取り組み、「家庭の日」には、家族そろって食事をしたりスポーツに親しんだりするなど、家庭の団らんや親子の触れ合いを深める活動をする。
- (4) 学校では、「かごしまの教育」県民週間等の趣旨を学校職員や保護者・地域社会の方々へ周知し関係機関・団体との連携のもと、更なる生徒指導の充実を図る。
- (5) 各関係機関・団体は、相互の連携を密にするとともに、各種の広報媒体を活用し、青少年育成活動の普及・啓発に努めるとともに、社会環境づくり、非行防止等の実践活動を積極的に推進する。
- (6) 家庭、学校、職場、地域が一体になった取組の推進を図る。

日置市

第2回伊集院地域校外生活指導連絡協議会

令和5年11月22日(水)

伊集院地域内の児童生徒の健全な育成を図るため、地域内の学校、PTAが協力・提携し、校外生活の情報交換と生活指導の充実を推進することを目的としている。

協議は、青少年育成についての情報交換、長期休業中における生活指導の共通理解事項の確認、長期休業中の帰宅放送など。

※ 地域(旧町)ごとに年3回開催しており、伊集院地域では、各団体の活動推進を高めるために、中学校区単位及び高等学校の4グループに別れ、小・中連携及び高等学校3校の情報交換・共通理解につながっている。



いちき串木野市

チャレンジ教室

令和5年10月28日(土)

児童・生徒に集団遊びや体験活動の機会や場を提供するために、各学校に年1回ずつ講師を派遣し、科学実験教室やものづくり等の教室を開催しました。



【 生福小学校 】

べえべえ笛
アルミ笛
糸電話
液体窒素

「もしもし……」
「なんですか……」
「それはね……」
「了解……」
糸電話では、こども達の会話が聞こえてくるようでした。温かい雰囲気の中で、こども達は、自主的・積極的に取り組んでいました。思い出に残る体験となったことでしょう。



【 旭小学校 】

万華鏡づくり 液体窒素

液体窒素による「超低温の世界」に子ども達は興味津々でした。きれいな花を液体窒素に入れ、再び取り出して凍った花びら等に触れる、このような直接体験が一番記憶に残り、身につく学習と言えます。

三島村

ギニアのマツウラ小学校との交流

令和5年11月28日(火)

マツウラ小学校は日本が支援しており、元 UNESCO 事務局長の松浦晃一郎氏に由来して名付けられた学校である。ギニア大使館から文化交流の支援を行いたいという要望があり、それまでに元々ギニアとの交流が深かった三島硫黄島学園と遠隔で交流を行うこととなった。

【参加者】 三島硫黄島学園前期生6名、職員4名、保護者3名
マツウラ小学校児童7名、職員1名、大使館職員2名

【方法】 19:00(ギニア時刻9:00)からリモートで交流



- 1 児童生徒によるフランス語での自己紹介
- 2 本校児童が作成した硫黄島の紹介動画の上映
- 3 マツウラ小学校の児童によるお礼のダンス紹介
- 4 本校児童によるジャンベ演奏、ダンス披露

※ 本校児童生徒はフランス語で自己紹介をするために、フランス語で話せる方と事前にリモートで講習を受けたり、個人で調べたりして準備を行った。



(マツウラ小学校からの自己紹介)



(本校児童のジャンベ・ダンス披露)



(交流後のお別れの様子)

十島村

中之島校区文化祭

令和5年11月4日(土)

様々な演技を通して、日頃の学習活動の様子を校区住民に知らせることにより、校区住民の学校教育に対する関心を高めるとともに、校区住民の展示作品の鑑賞を通して、校区住民との親睦を図り、地域社会の特色を学ぶために当文化祭が開催されました。



(小・中学生合奏)



(御岳太鼓)



(PTA有志ダンス)

小宝島子ども会活動

令和5年11月3日(金)

月1回程度開催し、子どもたちとその保護者や教職員が参加し、様々な活動を通して交流を図り親睦を深めています。

11月は、ハロウィンを開催。小学生から大人まで仮装し、ゲームを実施し、大いに盛り上がりを見せました。



令和5年度『優れた地域塾』に認証された団体を紹介します。

『飯牟礼上中地域塾』

日置市

現在、幼児5人、小学生28人、中学生9人、その他27人の計69人で活動しています。少子高齢化が進み、友だち同士で遊ぶ機会が減ってきている中、子どもたちが子ども会活動を通じて、仲間や地域の人たちとふれあい、成長することを目的として活動を始めました。

活動内容は、奉納棒踊りで地域の方々に踊りを教わって奉納したり、諸正岳の登山や鬼火焚きを行ったりするなど様々で、地域の方々と積極的な交流をしています。



～地域の青少年育成活動から～

令和5年度「寒げいこ」

(鹿児島県総合体育センター)

令和5年12月25日(月)・26日(火)に、県総合体育センター武道館と体育館で柔道、弓道、剣道の「寒げいこ」を開催しました。

この事業は、礼法・基本動作及び練習法等を身に付けさせるとともに、寒さに負けない強い意志と身体の育成を図ることを目的に、本センターが開所(昭和49年)以来開催しているものです。

柔道は固め技、立ち技の順で、それぞれ技術指導、打ち込み、投げ込み、自由練習に取り組みました。

剣道は、有効打突の条件を理解した後に、素振り1000本と基本打突(面・小手・胴・小手面)、その後、応じ技を二人一組で行い、最後に、指導稽古、地稽古に取り組みました。

弓道は、全体を巻藁(まきわら)稽古、基本姿勢、一手行射(ひとてぎょうしゃ)の3つに分配し、それをローテーションしながら稽古を行いました。最終日には、審査要領指導を受けました。

どの種目も、参加者のもっと深く学びたいという姿勢に、指導者が懇切丁寧に対応しており、充実した2日間となりました。





「燃ゆる感動かごしま国体学校観戦」

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会
いちき串木野市実行委員会

令和5年10月7日から16日にかけて、いちき串木野市で成年男子バレーボール、少年女子バスケットボールが開催されました。実行委員会では市内小中学校を対象に学校観戦を実施しました。総勢741名の生徒が観戦し、迫力の熱戦を間近で見ることができ児童生徒も喜んでいました。47年に一度開催され、国内トップレベルの大会を観戦できたことは貴重な経験であったと思います。実行委員会宛てに頂いた学校観戦の感想文を掲載します。

- 今回は少年女子バスケットボールの決勝を見ることができて、すごく貴重な経験となりました。私はルールをよく知っているわけではなくて、審判の笛が鳴った時に選手の動きが早くて何の笛なのか分からないこともありました。相手にボールがわたってシュートを決められた後の切り替わりが早くてさすがだなと思いました。どちらのチームも最後まで走り続けていてすごかったです。誰が出ていても強いチームで、チームの中でもチームワーク力があって、相手であっても助け合っていて感動しました。貴重な経験をありがとうございました。
- 京都府のチームも、千葉県チームもとても練習し、頑張ってきたというのが遠くからでも強く伝わってきました。また、自分の夢、目標に向かって進む様子を見て、自分も両チームを見習って信じる道をまた頑張って進んでいこうと思いました。この大会を見て、最後まで頑張るって大切なことだな、自分もできるところまでやってみようなどと思ったこと、考えたこと、そして決心をすることができて本当に良かったです。



「魚釣り体験・魚捌き体験」

三島村立三島硫黄島学園

令和5年10月13日（金）魚釣り体験・魚捌き体験が行われました。午前中、地域の漁師・住民・保護者の方々の協力で魚釣り体験。船釣り斑と堤防釣り斑に分かれてスタート。船に揺られながら、堤防から大海原を臨みながら、釣りの技術を教えていただきました。その甲斐あって、全部で30匹ほどの魚を釣り上げることができました。

午後からは捌き方教室が行われました。自分たちで釣った魚を、教わった包丁捌きで上手に三枚におろすことができました。捌いた魚は各自持ち帰り、自宅で保護者と一緒に魚料理を楽しみました。

子どもたちは、地域の方々と保護者に見守られながら、地域の食材を活用した活動から「自然の偉大さ」「地域の方々や保護者への感謝の心」「生きる力」を学ぶことができました。



前回第80号で紹介した「少年の主張鹿児島県大会」で最優秀賞になった串木野西中学校 箕輪碧泉さんは、令和5年11月12日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれた全国大会に、九州ブロック代表（2名）として出場し、奨励賞を受賞しました。大会の様子は、YouTube「第45回少年の主張全国大会全国大会出場者発表動画」で視聴できます。

令和6年度第46回大会も、多くの中学生の参加をお待ちしています。

「鹿児島青少年海外ふれあい事業（シンガポール交流コース）」報告

4年ぶりに本事業が実施され、鹿児島地域振興局管内から2名が参加しました。その体験報告です。



「国際交流の経験を通して」

鹿児島純心大学人間教育学部2年 前村 京香

私は「シンガポールの教育について学び、鹿児島の魅力を伝える」という目標を立ててこの研修に参加しました。シンガポールの教育についてはホストファミリーとの関わりを通して色々質問しました。研修期間中にガイドをしてくれた方から教えていただいたりしてシンガポールの学校生活や教育制度について学ぶことができました。

また、専門学校を訪問して同年代の学生とコミュニケーションをする機会もありました。交流した学生は日本に興味がある学生だったため、私がなかなか話し出せずにいると優しく日本語を交えながら話しかけてくれました。日本のアニメや漫画の話で盛り上がりとても楽しい時間でした。さらに鹿児島の魅力を伝えるために色々な施設で、鹿児島についてのプレゼンテーションをさせていただきました。慣れない英語でのプレゼンでしたが、聞きながら聴いてくださったり、質問してくださったりして鹿児島の魅力を自分たちの言葉で伝えることができました。



【リトルインドアにてヘナタトゥーの体験】

私はこの研修でシンガポールの教育について知ることができたり、異文化に触れたりすることで、これまで以上に世界に興味を持ったり、英語でのコミュニケーションを楽しんだりすることができました。

私は教師を志しているため、この経験を教師として子どもたちに伝えることで、国際交流に興味を持って欲しいと思います。

最後にこの研修に関わってくくださった皆様へ心より感謝いたします。ありがとうございました。



【訪問先にて英語での挨拶】



「違い」から学んだこと

鹿児島玉龍高等学校2年 八木 夏希



【ホストファミリーと空港にて】

私は昨秋、鹿児島県青少年海外ふれあい事業の一環として、シンガポールに行かせていただきました。シンガポールの多文化社会と観光事業にとっても興味があり、今回の事業への参加を希望しました。初めての海外、初めて触れる海外文化、初めての外国人との交流、全てが新鮮で充実した7日間を過ごすことができました。

特に私が印象に残ったのは、シンガポールの特色ある街並みです。小さな国の中に中華系やマレー系、インド系の人々が共生しており、あらゆる民族が暮らしやすいようにそれぞれの文化の特色を持った地域が存在していました。民族色あふれる魅力的な街並みが連立していて、言語や宗教などの文化の「違い」を肌で感じるすることができました。多文化社会のシンガポールでは、国民一人一人お互いの文化を尊重し大切にす姿勢がうかがえてとても感動しました。

また、ホストファミリーはもちろん、現地の学生や組織の方々とプレゼンなどを通して英語で交流ができ、自身の語学学習に対する良い刺激となりました。

私は今回、シンガポールの多文化や、それを生かした芸術や観光のあり方について学び、日本との「違い」を感じるすることができました。

また、「違い」を知ったことで、お互いの魅力を再確認し、自分の学びにつながる大きなヒントを得ることができました。

このような研修に参加できたことは、私にとってとても大きな経験になりました。このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。研修を通して支えてくださった方々に心から感謝します。



【メンバーとアラブストリートにて】

私が単位子ども会の会長に就任したのが、小学校6年生の時でした。第2次ベビーブームに生まれ、大変多くの子どもが居たのを覚えています。全子連の会員も800万人を超えていたようです。

単位子ども会の会長に就任した4月に、『自分たちで考えて、好きな事やったらいいからね』と育成者の方に言われ、早速好きなことをしました。

6月頃の定例会後、小学1年～6年生約10名を連れて、近隣のラーメン屋さんで、ラーメンを食べました。もちろん会長である私は、会計に対して『このお金は、子ども会の会計から払うように』と、指示を出しました。たまたま、現金で、毎年恒例のキャンプの用具を買うために約1万円の現金を会計が持っていたのです。会計の女の子は、『みた君ダメだと思うよ』と何度も進言しましたが、私は『会長の俺が言うから大丈夫。育成者も好きにしろと言った』などと言い、無理やり支出させました。

その後、素直な小学1～3年生の会員達は、『子ども会長から昼食をご馳走になった』と、自分らの保護者に伝え、そのお礼の言葉が私の母親に伝わるのにそう時間はかかりませんでした。

即日、母親に叱られ、数日後の夕方には私を始め、副会長・会計らとともに、私の母親・育成者が公民館に参集しました。育成者の方は、謝罪する母親に『いいのよ！美田さん』と言いつつも、私には『キャンプの金はどうするのか』『何をしてもしも良いとは言ったがみんなでラーメン食っていいとは言っていない』などと叱られました。レシートに記載のあった『オオモリ×2』と、『ギョウザ×3』の文字を見て、私の母が『誰が大盛を食べたのか』と、犯人さがしを始めた事を昨日のように思い出します。私は子どもながら、『なんでもやっていいと言う言葉は、ほんとになんでもやって良いのではない』という大人の事情に気づきました。

その後、ラーメンを食べた子たちを中心に臨時会合を開き、キャンプ実施の可否と、約6千円補填について議論した結果、廃品回収を実施する事になりました。

当初ダンボールを回収して、持っていき『引き取る単価を上げてくれないか？』と事情を話し交渉したところ、『協力してやるが、アルミを集めて来い、缶でも鍋でもよい。アルミならいい単価を出してやる』と言われ、その日を境に私たちの子ども会は、学校の行き帰りにアルミ缶拾いは当然で、放課後や土曜の午後・日曜日に必死にアルミを集めました。自分たちの地区だけでは足りず、隣の地区にアルミ回収に出かけ、隣の子ども会の会長に、『人のエリアを荒らすな』と、いわゆる『縄張り争い』も経験しました。

結果、ラーメン食べる前より会計残高は増え、キャンプについては、地域の方から米・野菜、さらには肉やフルーツなど様々な支援物資もあり(必死にアルミを集めていたので、事情を聴かれ地域のおおよその人が知っていた)、過去に例を見ないリッチなキャンプを開催できました。

私をはじめ単子の幹部は、問題に直面しましたがその解決策を思考し、そして解決しました。その結果、『アルミはいい金になる』という事、『地域の人に頼ればいろんな助けをしてくれる』と言う事、『金があるからといって会の金で勝手にラーメンを食べたらダメだ』という事、さらには『世の中には縄張りがある』ことに気づけたのです。

私たちだけではなく、1～2年後輩の子らも、私たちの姿を見て同じ失敗はしなかったはずです。(当然ラーメンを食べたらダメだと申し送りもしています。)私はその後、ジュニア・リーダーを経験し、市子連・県子連と子ども会に関わり続け現在に至ります。

『日本中の子どもたちの真の成長と幸福のための子ども会』全国子ども会連合会の理念です。『真の成長』は、言われて久しい『子どもの手による子ども会』の実現を通じて、子どもたちに様々な気づきの場を保障する事により達成できます。育成者として勇気をもって成功も失敗も経験させたいと強く思っています。今までの成功や失敗などすべての積み重ねが現在の私たちを形成しているのです。

「子ども会」は、生まれて初めて属する自治組織であり、異年齢の環境下で様々な経験ができます。『真の成長』を見守るため、『子どもの手による子ども会』の普及に皆様と伴に取り組んでまいります。

本会発展のため、微力ながら尽力する所存でございます。皆様の力強いご指導ご鞭撻を頂き、いつの日か真の幸福と一緒に感じられたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4年7月に、**全国子ども会連合会会長**に就任された**美田耕一郎**会長の挨拶です。「子どもたちの自主性を育てるとはどういうことか。」ヒントになればと思い、全国子ども会連合会の承諾を得て掲載しました。(『公益社団法人全国子ども会連合会』<https://www.kodomo-kai.or.jp/>より、原文のまま掲載)